



# 連載特集

## 秋田デステイネーション

### キャンペーンに向けて②



あきたびじん

問い合わせ

商工観光課観光物産係

☎ 43-17072

今月16日から、秋田新幹線新型車両E6系「スーパーこまち」の営業運転が始まります。東京・秋田間の移動時間が短縮されるのはもちろん、秋田デステイネーションキャンペーン（秋田DC）を前に、全国のお客様への強力な呼び水となりそうです。

大館駅は、秋田方面と青森方面を結ぶ奥羽本線の主要駅であり、また花輪線の接続駅として市の玄関口の機能を持っています。

10月からの秋田DCに向け、連載企画第2回目の今回は、地元自治体と連携してDCに取り組んでいく、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）の阿部和彦大館駅長にお話を伺いました。



ロングノーズが印象的なE6系「スーパーこまち」



JR東日本 阿部和彦大館駅長

**秋田DCからつながっていく「地域づくり」について、昨年のプレ秋田DCの取り組みにはどんな印象を持たれましたか？**

「本場大館きりたんぼまつり」の成功に向けて、市民の皆さんが丸とんぼとして取り組んだことで、これまでとは違う一体感が生まれたと思います。それまで一緒に行動することのなかった人たちがつながることで、強い結束力が感じられたのではないのでしょうか。きりたんぼまつりを開催することに

よる大館のPR効果・経済効果も大きな成果でしたが、それ以上に、運営された皆さんが自身の「力」を確信し、市民の皆さんの様々な意欲の創出と「オラが街の自慢」づくりにつながったと思います。

JR東日本は地域の風土に寄り添って、地域と一緒に学びを積み重ねます。地元の人たちの話を聞いていくと、その地域ならではの知恵や土地の事情を深く理解することができません。地域の方々も自らの土地の強みや優位性を認識することで誇りにつながり、更には生きがいや元気をつくることにつながります。

**JR東日本が取り組んでいる「地域づくり」についてお聞かせください。**

最終的には、この活動が地域の活性化・地域づくりに発展することを期待しています。

JR東日本グループでは、平成21年から「地域再発見プロジェクト」に取り組んでいて、これは、地域との連携を強化して地元と一緒に知恵を絞る「共創」を核としています。JR東日本が持つ新幹線などによる鉄道ネットワークの特性と首都圏の駅ビルやホテルなどでの販路を持つメリットを生かしながら、更なる地産商品や伝統文化、観光資源を紹介するといった取り組みを進めています。

「地域づくりを進めるうえで、大館の強さは何だとお考えですか？」  
大館の強みは何と言っても「食」です。比内地鶏、とんぶりや果樹など、魅力的な「地物」があります。これらを生かした新しいメニュー開発などの取り組みで、農業も飲食店も観光業も更なる発展が可能だと思います。

具体的には「ヒト」と「モノ」の首都圏と地域の循環を観光の創出や伝統工芸品の発掘、農産加工商品の開発につなげ、地域における新たな雇用や資源の活性化を目指しています。

また、伝統工芸品、祭りなど、長年培っている技や信念（人のエネルギー）を持っています。これを時代に合った切り口で様々な提案することによって、大館のファンやリピーターを生み出すことにつながることができそうです。